



Vol. 10
MERCADO LONJA DEL BARRANCO / Sevilla
 (メルカド・ロンハ・デル・バランコ / セビージャ)

スペインのお勧め
バル・レストラン
 Bares y restaurantes recomendables

現在スペインではマドリードのサン・ミゲル市場に代表されるような市場革新が各地にて起こっており、セビージャでも2014年11月に“メルカド・ロンハ・デル・バランコ”がオープンした。その建物は、かのギュスターヴ・エツェルによってデザインされたと言われ、1861年建設開始より22年経った1883年にやっと完成を見たそうだ。その後はしばらく魚市場として利用されていた。トゥリアナ橋傍という観光客にとってもセビージャーノスにとっても大変魅力的な場所に位置し、またその広いオープンエアースペースも所有していることにより人気を博すスポットになっている。1200m内に20もの飲食店/ショップが軒を並べ、お酒、食事、デザート、お茶と朝から深夜まで客を飽きさせない。日本食レストランも近々オープンの予定だ。また、メルカド内では文化アクティビティーの開催も可能で、音楽、演劇、絵画、写真、教室やコンパレナスまで様々なプログラムを楽しめるそうだ。それは、まさにガストロノミーと文化、そして遊びが混ざり合ったおもちゃ箱のよう。今日はパエーリヤ、明日はコロクケ、ハンバーガーもいまいかな〜等と考えているうちにあっという間に時間が経ってしまいそうな空間だ。



写真上: チーズ、シーフード、ビール、サルモレッチョ...等それぞれの専門ショップが並ぶ。/ 左下: やはりパエーリヤは必須であろう。/ 右下: 深夜まで賑わうオープンエアースペースの1つ。



田中富子 たなかとみこ / Tomiko Tanaka

日本にてフォーダー、米通信会社勤務後、2001年よりセビージャ在住。2006年個人自営業ビザ獲得。2008年アンダルシア州立ハエン大学にてパーズン・オリブオイル・テイスターにおける大学のエキスパートコースを終了し、オリブオイル・エキスパートに。現在は、オリブオイルコース、食品輸出入仲介業と執筆業を主に、通訳、翻訳等スペインと日本を橋渡し中。誠実、情熱、感動がモットーの熱い人間です。HP: www.creapasion.com / <http://spain.fc2web.com/>

Información

MERCADO LONJA DEL BARRANCO
 (メルカド・ロンハ・デル・バランコ)

住所: ARJONA, S/N, SEVILLA 電話: +34 954 22 04 95
 HP: <http://www.mercadolonjadelbarranco.com>

※上記情報は、2015年2月時点のもので変更する可能性があります。



マドリード在住15年
 旬のスペイン情報をお届けします

スペイン小橋 ②

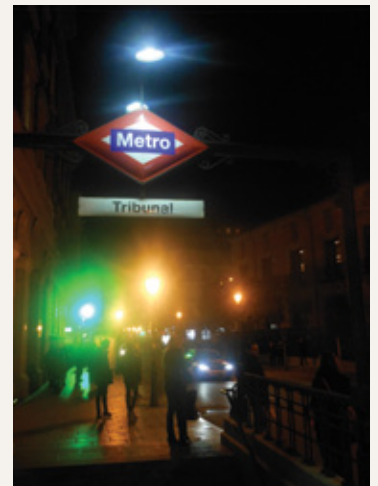


スペインにとって2015年が持つ重要な意味

2015年は、スペイン近代史上に独裁政治時代という稀な歴史を作った独裁者フランコ将軍の没後40年目にあたります。これは長い年月スペインが国際政治・文化舞台で孤立していた時代に終止符を打ち、新スペイン立憲王国としての第一歩を踏み出してから40年経ったことを意味します。フランコ将軍の死がもたらしたものは簡単に言うと日本が鎖国時代を経て世界へ扉を開いた日本の姿に近いと言えるでしょうか。

フランコの死後、長年行動規範を徹底的に管理されてきた国に突如表現の場が与えられました。ようやく市民に返された“発言する権利”と“発言の自由”。若者のエネルギーと、表現したいという欲望は首都マドリードに徐々に集まり、やがて70年代の終わりには、後に“モビダ マドリレーニャ (マドリードのムーブメント)”と呼ばれるようになった社会文化現象を起こします。文学、音楽、美術、映画などの芸術面では、自由に表現できるという純粋な喜びだけか持ちうる強烈なエネルギーが渦巻いていて、スタイルはともかく渴望という弾丸をフルチャージした若いアーティスト達が発言し続けました。それぞれが個性的な表現方法を模索し続けた80年代半ば頃までの数年間は、スペインの現代芸術

の原点となったと言えるでしょう。今では世界的名声と地位を得た私の敬愛するアルモドバル監督もモビダをリードした若者の一人でした。モビダの魅力的な点はスタイルがまったく確立していなかったこの時代、ジャンルや形式、固定概念にこだわることを知らない若者が思い思いの服装、言葉、趣向を凝らして好き勝手にやりたい放題が許された数年だったというところ。そのときの音楽を聴いてもこれは...?と思うようなものもたくさんありますが、そこにあるエネルギーは満たされた時代には生まれられないのかと思うと、モビダ世代でない私は一時の自由奔放、カオスの時代を生きた人たちをある意味羨ましくも感じます。この現象は1910年代に生まれた芸術運動“ダダイズム”のそれに少し似ているように見えますが、大きく異なることはダダイズムには否定・破壊が根底に流れているところ、モビダは肯定・誕生にあるところでしょうか。2015年はそんなモビダの誕生から約40年目。スペインではモビダを経験しなかった新生代のパワーが国を支えていく新たな時代を迎えようとしています。



モビダの中心マラサーニャ地区へのアクセス、地下鉄トリブナル駅。



土屋寛子 つちやひろこ / Hiroko Tsuchiya
 マドリードに15年在住。仕事のビザで渡西、日系企業に勤務。スペイン人の夫と4歳の娘と暮らしている。